

...

品名	單位	明治四十五年	大正八年	增減
明治四十五年並大正八年物價對照表				

[illegible]

毎週一度宛品物を換える

毎週一度宛品物を換へる

高本高女校長

春の雲霞山町の京城高女堂
宛に御贈するこの本校長は
熱心に教材の研究中で其に快
よく記者を迎へて種々な御話
が有りまして後談堂へ通ふ御
話

任じたり。御物中谷
に、陳列す

京町通の鮮も學談
は此

てりまが將來は此
思つて

下

附加税を増徴して

無で
 はそ
 に出
 亦出
 けを
 けを
 近時都市政策云々が盛んに
 宣傳せられ又戦後年間の社會
 的變遷は各都市が特異の施設を
 になつては公設市場

附加税を増徴して
 規事業を營むの
 良策は皆無である

物價昂騰と

政策云ふ事が盛んに
物價昂

新 他
 基布時より「罪人の恩」同牧師「日
 氣火燃ゆ」秋井牧師「午後七時半
 」雲の柱火焼く同牧師「午後七時半
 院」雲の柱火焼く同牧師「門前宗
 の聖祖記提唱午後一時より日曜學
 々神理同會（指名可）午後八時
 日次祭典執行式發演「日本基督
 教會」會所「午後七時半」
 「前日の會井口牧師午後七時半現
 府にて「同牧師」の情禮承認願
 府にて「同牧師」の情禮下着在の願

本日正午より

本日正午より
悪く本日の正午から若草本
馬車別院に於て京坂歌會の
第一陣小集を開きます。諸好
の士は皆つて御参下下さい。
諸草並に會費は席上に於て
整理いたします。

幹事

1000

屋稅改正の道令を擬する者
 の之は元來釜山嶺南浦の兩府
 府の歲入増加を計る爲め
 建物稅なる特殊の科
 起した之は其建物の噸額例
 木造、煉瓦乃至は石造に依

平額八圓の家屋税で又

本町や鍾路の如き
成の町に於ける建物も、町末の
軒並み、町所にあるものも、概
に同一率の税金であつたので、
不公平だとの非難もあつたの
で、町長は公平に課税せられ
るに依つて、商人の増加を計
る出来やうと、満足を述べた。

▲京城組合教會(南米倉町)
時半より『生命の傳達』古木敦

本會より登校校別より本午商▲治一

[illegible]

桃谷研究試験所創製

白色美顔水

光榮ある
美顔化粧料
三十六種の内

嬉しいと思
召す事四つ

學校へ御通學の

御愛嬌ともく

學校にお家を御訪問なさいふ場合、
後校には御強でもまだお化粧の方
には半生飾りお構ひのない方々は、
却々お化粧が美しく出来兼ねます。
これは顔の地肌がお化粧願してゐるな
いからで、全く無理のない事ですが
然ういふ場合に白色美顔水をお用ひ
になれば、誠に努なくすらく、こ
そから

汽車の時間等が
迫つて大急ぎと

いふ様な時、または御主人が外から
御帰宅になるに其儘、「まあ前々一
緒に出かけよう」と洋服も肌着も
御在る様な場合、其他何にしても所
うしたお急ぎの時なごには御てお化
粧も變な工合になりましたが、その
が、そこを白色美顔水を一寸お用ひ
になりますと、狼狽する必要もなく、
直ぐに充分美しい整つたお化粧が
出来るのです。次に

吹出物やにきび

また顔色の工合

で、何う背を折つて見てもお化粧が
思はしくなく、現になり美観な色澤

になり、濃く暗ければ又白ペンキの
様で、御しても工合が悪いといふ
様な場合、白色美顔水で化粧をな
されば、これは又何の苦もなく、す
らく一行通つて、誠に自然生れつ
きの色白が早速へるばかり、すつ
きり、高貴な美しいお化粧を
御しますのです。それから又

肌理の荒い方
脂の多過ぎる方

これは皆度反汗の方々はあります
が、お化粧が美しく出来ぬ事は一様で
あります。此方々は白色美顔水を
用なされば、毎も氣持よく容なく美
しいお化粧が出来るといふお喜びに
加へて、肌理は次第に滑かに美しく
なり、表面の美しさを添へる一方脂
の多い方は、其爲めに御易い吹出物
なごも出なくなるといふ一寸反對し
た兩方によい成分を、此化粧料に含
んでゐる事が御分ります。されば
こそ白色美顔水は

あらゆる御家庭
の必需品として

ますく人氣を集めてゐる次第であ
ります。萬一にも未だの方は、早く
此學者の創製したる化粧料にて、
從來のお化粧の誤點をお取りなさ
る様お願ひします。

肌色美顔水

美しい肌色の附いた水白粉ですから顔に白過ぎず品のよい美しいお化粧が出来、色の白くない黄の方にも白粉が際立らず生れつき色の白い人がお化粧したのと同じ様に附きます

三保

に

ホーカイ液
ホーカト白粉本舗
ホーカイ美髮液
堀越嘉太郎商店
東京神田和泉橋際
電話神田一四三、四四二、四五五
銀座口座東京一五六